

エコヒルズ・インターンシップ生 卒業論文

日本大学 4年

2003年11月15日～2004年1月28日

この卒業日記を書いているのは、最終日のインターンから3ヶ月半経った、現在です。大学4年にインターンを体験し、今は社会人一年目として働いています。

仕事は始まったばかりですが、今もインターン時に常に意識していた事務作業の効率化や、無駄な時間をとらないような心がけが身に付いているのか、自分なりの工夫をしながら早く仕事をやるのが楽しいと思うような毎日です。ミスをしたり、仕事もわからないことが多いですが、エコヒルズで得た経験を活かして成長していきたいです。

思い起こせば、インターンをお願いに行った際にエコヒルズのハードな仕事に衝撃を覚え、このハードな環境に身を置くことで自分を変られるのではないかと思いました。会社の仕組みや、仕事の厳しさを知らなかったのもその時まで働くということが抽象的に捉えていた節があり、就職活動もうまくいっていませんでした。実際にエコヒルズで体験し、働くことへの現実的な理解が出来ました。ただ単に就職したい、ではなくその会社に自分がどう貢献できるか、改善点はなにか？面接でありながら考えて会社をみていくことは、まったく違った態度姿勢になりました。

就職活動以外にも、卒論や今の仕事にと、羅列していったらきりがなくらい学んだ教訓は影響を与えています。今もっとも念頭においていることは卒業証書と「継続は力なり」のレア物パンフレットにも書いてあることで、**常に相手の立場にたって考える** です。

これが私に足りていない部分で、これができれば仕事はもっとスムーズにできるはずです。そして、これは常に気に留めていないと、急いでいたりするとすぐに抜けてしまいます。なので常に！相手の気持ちを考えて話すように私の唯一で絶対の品質方針にしようと、密かに規定してしまいました。

インターン期間は3ヶ月で、週一回だったので、回数にすればそんなにはないのでしょうか、私の中では毎日が濃い内容で本当に一年は修行させてもらった気分です。

このように私にとって、エコヒルズインターンは「新しい視点を与えてくれたところ」でした。出会えて本当によかったです。懲りずに教えて頂いてありがとうございました。私も自己改善と会社に貢献できるよう日々精進していきます。田宮さん、那須さん、みなさんのエコヒルズも今後より一層良い仕事ができますように、願っています。

東京大学教養学部 2年

2004年5月28日～9月29日

まずは、週1回しか勤務できず、また仕事をするにも未熟な私をインターンとして温かく受け入れ、様々な機会を提供して下さった株式会社エコヒルズの田宮社長を始めとする社員の

皆様に厚く御礼を申し上げます。自分にとっては初めてのインターンシップであり、至らないところやご迷惑をおかけしたところも多々あったと思いますが、私としてはとても勉強になることの連続で、「社会」というものの一端を覗かせていただけたことは、とても大きな経験となり、考え方や行動にも多少の変化をもたらしていただきました。私が言わずともよいことだとは思いますが、今後もできるだけたくさんの学生に、こうした機会を開き続けていただきたいと思います。

インターンを辞めてから随分と時間が経ってしまい、細かいところまで振り返ることはできませんが、インターンとして活動した内容、またそれを通して考えたこと、学んだことを簡潔にまとめてみたいと思います。

まず4ヶ月間のインターンを通し、私が最も強く感じたことを述べたいと思います。一つは「自分が今暮らしている社会と、「社会」の違い」です。私は現在大学生で、一般に「学生」と呼ばれる身分であり、また自分もそのつもりでいます。その「学生」社会に属する人間として、今回インターンとして活動した中で感じたのは、「曖昧さ」に対するそれぞれの社会の人間がとるべき態度がかなり大きく異なる、ということでした。「学生」社会においては、曖昧さに互いに目をつぶります。何か活動をする際に、役割分担や期限、また目標やそれを達成するまでのプロセスが曖昧で、待ち合わせをする際などでも多少の遅刻は許容する/される。それに対し、「社会」と呼ばれる場所では(場合によりけりですが)「曖昧さ」は徹底的に無くそうとします。将来的にそれが命取りになるからです。いつ法的な問題に発展するか分からず、一旦そういった問題に発展すれば「社会」におけるその企業の名前は失墜します。この相違点の原因というのは、おそらく背負う責任の大きさの差異と、それに起因する「甘え」の許される範囲の違いなのだろうと考えています。良し悪しの問題ではなく、そういったものを非常に強く感じました。

もう一つは、「思考を止めてはいけないということ」です。事務作業やルーティンワークを行うこと、電話の応対など、細かいことにも常に気を配り、改善を志向することは、仕事の効率を上げ、結果として会社の業績の向上につながるものと思います。また最終的には自分の成長になるとも考えます。それを目指すには、常に思考をしなければならないと感じました。どこか改善できる点を探す努力や新しい視点を導入してそれにより成果を上げる努力、それらは全て絶えず思考を続けていることに裏打ちされていると思います。仕事に没頭するのではなく、常に一つ高い視点から見渡しながら仕事を進めるということが大切であると、感じました。「気づき」を導く努力が必要ということでしょう。

以上がインターンとして活動した中で感じたことです。次に具体的に行った業務の中でも、比較的時間を多く割いて携わったものをいくつか上げたいと思います。

0. NEW 環境展におけるアンケート作業

5月28日(金)の、東京ビッグサイトにおけるNEW環境展最終日に、初めて株式会社エコヒルズの活動に参加させていただきました。ここでは、出展企業にアンケートをとって回り、将来顧客となりうる企業の情報をとってくるということを役割として与えられました。

いきなりアンケートをとって来いと言われ、正直面食らいました。それまでほとんど社会人(それも赤の他人の)と接してきたことのなかった私としては、初めの話しかけ方

から何から全くわからず、また会社の事業や ISO という国際規格などに関する知識もほぼないに等しく、もともと人見知りするという性格も手伝い、アンケートをとりに行くのにかなりの時間を要しました。そのくせに何を話すべきなのかもよくわからず、かけた時間の割に得た情報の質はかなり低かったと、後から振り返って思いました。次の出勤の際に、田宮社長に「必死さが足りないね」と言われ、全く否定のしようもありませんでした。

おそらくあれは「営業」と呼ばれるものの一つだったのでしょうが、あのような場に集まる企業は当然色々な情報を求めて参加しているのだから、あそこで話をさせてもらうことは、普通にアポイントメントを取ることもよりまだいが簡単なことであつたはずだと思います。「このままだと社会に出て行けぬな」と、強く感じました。

1. ISO14001 認証取得企業リスト作成

インターネット上に公開されている ISO14001 認証取得企業のリストをまとめ、CD-ROM にして発送するという作業をまず社内で行いました。インターネット上のデータを CSV ファイルに変換するプログラムを神田さんが作って下さっていたので、恐らくそれがなかった場合の 10 分の 1 ぐらいには時間が短縮されたと思いますが、それでも焼く 14000 件の企業のリストを作成するにはかなりの時間がかかり、また定期的にリストが更新されることが判明した後は、最新版に合わせてリストをチェック、アップデートする作業も加わりました。

作業としてはデータの打ち込みが全てで、単純作業の繰り返しに見えましたが、実はその単純作業をいかに速くミスのないものにするかということを中心に考えることが大事で、改善を常に意識することが必要であると身をもって感じました。

2. 中国人研修生が作成した文書チェック

アイセック経由で中国からインターンに来ていた方が、中国の環境法の日本語を担当していましたので、その訳を日本語として自然なものにするためのチェックを行いました。

法律の専門ではないので、「法律っぽい」文章を作るのは中々難しかったのですが、むしろ海外に進出していく企業にとって、現地の法令を事前に把握しておくことの大切さを実感しました。また中国の法令を見ることで、普段とは違った側面から中国という国の考え方を垣間見ることができたような気がして勉強になりました。

3. アメリカからの製品注文への対応

アメリカから、エコヒルズの製品の注文が来ましたので、それへの対応を行いました。基本的には日本語での対応と同じですが、海外からの送金や輸送等に関して、確実にできるだけ安価なものを探す作業が意外と骨が折れました。輸送や送金手段一つをとっても、カネを無駄にはできない、ということ、また製品を確実に届けることで義務を果たす、という企業の考え方を少し学びました。確かに、製品が手元に届かなければ結局それは生産・発送していないのと同じことになるし、先方に出費をさせておいて製品が届かなかったのでは信頼が落ちるわけで、製品を作る前から届いた後ユーザーが使うその後まで（サプライチェーンというのでしょうか）どの段階においても等しく責任を果たす姿勢が必要となりました。

4. ISO14001 認証取得企業向けアンケート企画

私が最も長く時間を割いたのがこの仕事であったと思います。株式会社エコヒルズの

新規顧客獲得の一步目として、ISO14001 認証取得企業に対してアンケートを実施し、対象のニーズの洗い出しを行うことで、提供するソリューションやアプローチの方法の改善に取り組むことを目的としていました。

アンケートといってもただメールや FAX を送ったり、web で記入をさせたりといったことをやればいいのではなく、記入する側の都合にも配慮をしながら作らなければならなかったことは、新しい発見でした。また、そもそもゼロから自分で作るという経験が初めてのことでしたので、初めは「これでいいのかな」と戸惑いながらも進んでいました。それでも企画書のある程度作り、実際に作業を始めることにはそこそこの自身もつき、なかなかいい経験でした。ただ、今になって企画書を見直してみると、まだまだ穴が多いことに気がつきます。前提が疑いきれてなかったり(「それほんとかよ!」などと思ったりもしてしまいます)もっと考えられたのではないだろうか、と思ったりするところもあります。やはり未熟であるということも感じますが、同時に、まだ自分は成長できる、と励みになるものでもあります。

心残りなのは、アンケートを実際に実行に移し、その効果測定と反省、及び次への申し送り等を最後まで行うことができなかったことです。責任を果たすことができなかったこと、また途中那須さんはじめ社員の方々のお手数もかけたこと等、まだまだ至らない部分があったと、今考えると反省しきりです。

以上です。

株式会社エコヒルズの益々のご発展を陰ながらお祈り申し上げます。

自分も、目標に向けて今できることをしっかりやっっていこうと思います。

早稲田大学 大学院

2004年4月21日~2004年6月3日

僕は、大学院で「環境」について勉強をしています。所属する研究室での勉強は、リサイクル関連ではあるのですが、世の中で一般的に認識されている環境問題とはいささか違っており、技術開発の研究を通して行ないます。また、大学では基礎研究を行なうケースが多く、実社会における環境を取り扱うビジネスに触れる機会がありません。そのような背景もあり、インターンシップを通して「社会における環境」に触れることは出来ないものか、との思いを抱き始めました。それがエコヒルズとの出会いのきっかけでした。

インターンシップを通して学べることは何かを考えました。当然、環境の新しいとらえ方に触れることは出来ます。しかし、社会で通用するために自分に足りない能力、また、求められる能力がハッキリと実感できるのではないか、との思いが一番強くあり、その部分で何かを学びたいという意気込みで面接に望みました。会社自体は予想以上に小さいオフィスだったのですが、その分、密にコミュニケーションが図れていいのかなと感じました。また、実際に任された仕事は雑務ばかりでなく、納期が数時間後に迫った業務にも携わることができ、非常に貴重な体験となりました。

初日、「雑用が出来る人間が尊敬される。」との言葉を頂きました。なんとなく分かる気がしていたのですが、日を重ねるごとに自分なりの解釈が出来るようになりました。

これは、常に意識していたこと「正確性」、「作業効率」に繋がるのではないのでしょうか。この二つは当然と思っていたのですが、いざ業務に取りかかってみると、どちらか一方に偏ってしまい納得のいく結果が得られませんでした。頭で分っていても、実行するのは難しい。当たり前前のことを当たり前になすことの重要性に改めて気づきました。それはその人の能力につながり、評価となって表れます。それが一番顕著にでるのが「雑務」なのではないのでしょうか。今回のインターンシップを通じて、自分に必要なこと、また、社会のみならず生活をする上で重要なことを学びました。これは今後の大学での研究生活や社会人となったときの仕事への取り組み方にとっても良い影響となるはずです。時間的に、自身の研究が多少疎かになってしまったのは否めませんが、今後のことを考えるとむしろプラスになる経験だったと思います。

様々な経験、お話を聞かせて頂いた田宮社長、親切に指導して下さいました那須さんに深く感謝致します。

中国人民大学法律学院、院生一年

2004年7月23日～9月14日

* 研修内容総括

- 1、データベースを作るために、ISO9001 取得企業のデータ保存作業約 3 万 5000 件を完成させた。日本全国に約 4 2 の都道府県の取得企業の FAX リストを終了したこと。
- 2、エコヒルズのホームページを更新して、新しい情報を入れ替えること。
- 3、「これだけ！環境法、廃棄物処理編」という教科書のチェックすること。
- 4、中国の固体廃棄物の法律定義、分別、と排出者の責任の翻訳すること。
- 5、「マイナスイオンの医療効果レポート」と「都市部の環境問題」を入力、訂正すること。
- 6、電話に出ること。
- 7、来客の接待すること。
- 8、書類をコピー、配布、整理すること。
- 9、EXCEL でセミナーに関する資料を作ること。
- 10、ISO - SQUARE で情報を登録すること。
- 11、事務所用品を買いに行くこと。
- 12、オフィスで省エネの方法を検索すること。
- 13、環境のボランティア活動に参加すること。
- 14、法務局や職業仲介所に行って、証明書類をもらってくるのと保険の手続きを完了すること。
- 15、エコヒルズの業務紹介を翻訳をすること。
- 16、新聞記事の翻訳をすること。

* 研修で感じたこと、学んだこと

エコヒルズでは、職員の皆さんが強い連帯感を持っていて、一丸になって、夜遅くまで残業をする印象を残した。

来客の接待から、電話の出方、お客様に対して書類配布の仕方まで、サービスがいいという特徴がエコヒルズの独特なものではない、業界の雰意気と思う。特に、エコヒルズさんは環境コンサルの作業に携わっているので、この面から言えば、もっと素晴らしいサービスを提供して、

お客様に安心感を与えるように努力している。

地形の理由もあると思って、日本人が繊細な心を持って、科学技術の先進の面におかれ、他の国に及ばれない発展を収めていた。日本は資源に乏しい、国土に狭い国であるけれども、世界的に二番目の経済地位を居るのが人々に感心されるべきだと思う。

昔の終身雇用の変わりに、転職が多いという世界風は日本にもよく吹いていた。会社にとって、新人の加入を通して、新しい血液が入ってきて、元気な活力をもたられる。その反面、転職が早すぎると、会社が新人を培養するために初期投資は水に流れ、悪循環になる恐れがあると思う。

「約束を守る、残業をする、お客様に立場になって、良いサービスを提供する」、これらは社会的な習慣と言うよりも、日本の企業文化と言えるでしょう。

倫理的な文章の書き方、理屈に合う思考、人間にとっても、会社にとっても、立派な成果を収めるために、身に着けなければならない技であると言えるでしょうか。

飲み会も日本人ならではの風景である。飲み会を通して、お互いに、話を交わして、人脈を広げたり、お互いに情報を伝えたり、人間関係に役に立つと共に、ビジネスチャンスもどんどん入ってくる。

日本民衆の環境意識も認識した。法律文化が違っていたので、自国の民衆がわかる条令が外国人に疑問を抱いているのは逆に当然のことと思う。翻訳を通して、自国の法律を深く、詳しい理解できるようになった。

*自分が大きく変わったと思う点

海外で生活して、独立心と独立力を共に持てるのは大切である。

全てのことに對して、勉強の心を持つのは大切な事と思う。

平日には、自分自身は気が短いものであるので、一日中ずっと座り込んで、スクリーンをじっと見込んでいることは想像も付かなかったことである。今回の研修を通して、チャレンジすると共に、自分自身の集中力も鍛えてきて、粘りつけるようになってきた。

「人間にとっても、企業にとっても、細やかな所から品質を望まれる」という発想も頭根をおろした。仕事をするとき、不注意と、無駄をするのは別の話としでも、お客様にご迷惑をかけることなんか、自己反省すべきことだ。特に、簡単な仕事をする時、油断をしやすいので、責任心を持っていることが大切であることだと思う。

電話では、話し相手にたいして、お互いに顔を合せない、表情と姿勢も見えないので、自分が話したいことをスムーズに伝えると共に、相手の意味を正しく理解してきかどうか、心配な点である。電話対応の作業を始めたばかり時の緊張感をする、同僚の皆さんの電話用語を耳に傾けた上に、自分も精一杯頑張った結果であると思う。最近、うまくできるようになってきた。

研修は異国の企業文化を接する機会だけではなくて、自国のことも深く理解する機会である。しかし、文化が相違であるからこそ、豊富多彩な世界が構成されると言えるでしょうか。

資源が豊かな国にとっても、資源が貧しい国にとっても、省エネを推進すべきだ。なぜならば、地球は自国のものではない、世界の各国が力を合わせて、共有財産の地球と環境を守るべきだ。

教材から勉強してきた知識が倫理的な考え方を通して、知恵になるのは学生から社会人への道であると思う。

勉強は一生涯の仕事である。終わり日はない。

コミュニケーションスキルの基準を勉強してきた。

* 研修以外で感じたこと、学んだこと

中国の食文化が「奢り文化」と言える、その反面、日本場合に「割り勘文化」と認める。だから、私の感じで、中国は日本より人情味が溢れている社会と言えるだろう。

休みの日に、観光して、ビジネス以外の日本文化に触られる。エスカレータの乗り方と電車の乗り方を自ら経験した。「周りの人々にご迷惑を掛けないように」工夫するのは社会的な光景である。

日本は先進国として、物質的なものが溢れんばかりに豊富である。

東京の地下鉄が蜘蛛の巣のように各地に通じる。サラリーマン達の主な通勤手段として、大変便利なものであると共に、環境にやさしい、省エネも実現される。

ホームステイ先の奥様のお陰で、本場の日本料理を一杯食べさせていただいた。奥様との話を交わして、色々なことを勉強してきて、これからの人生に参考に成れると思う。

「サラリーマンやめよう」というセミナーも出席できた。21世紀の実力社会で一人前の成績を収めるために、知識を知恵に転化する能力とチャレンジを迎える能力を備えるのは大切なことと思う。

* 研修で良かった点、悪かった点、困った点

良かった点：

- 1、中小企業で研修するため、コピーから翻訳まで、様々な作業を接するチャンスももらった。
- 2、社長を始め、事務所の全員が一丸になって、会社の売上を上げるために、一生懸命前向きに頑張っている姿が目に見えた。
- 3、社員の人と仲よくなれる。
- 4、仕事や部下に対して、社長の態度ややり方等を見て、前途がある会社であるかどうかも見極める能力を身に着けた。
- 5、仕事以外に、「倫理的な考え方」や「コミュニケーションスキル基準」のような、思考力を鍛えることも勉強した。

悪かった点：

・エコヒルズは環境ビジネスをやっている会社ですが、オフィス喫煙ではないこと。環境の面から言えば、タバコの煙が漂っているオフィスには、エアコンを掛けても、室内温度を下げにくい、省エネなやり方ではない。健康の面から見ると、タバコの臭いと煙のせいで、息苦しくなって、体に悪い。

困った点：

・会社のデータベースを作るために、ISO 9001 取得会社を検索と保存する作業が物凄く多い。そういう作業をする時、あんまり頭を使わずに、機械的 WEB ページを開いて、保存した。煩わしい作業ですから、疲れやすい。

*アイセックのサポートについてとその改善すべき点

同期に、それぞれの会社で研修している他の研修生の仕事と経験を了解してほしい、残念なことは研修生間にお互いに交流しられる道がなさそうだ。

日本のアイセックのホームページで研修生達が自由に登録し、外国文化に関して考えことや個人的な見方を発表し、あるいは議論し、BBSのような交流される「窓口」を創立することは可能性があるでしょうか。

*今後の目標、研修を今後の人生でどうかすか

研修を通して、異国文化に触れたり、視野を広げたり、物事に対して考えも変わりつつある。周りの日本人と話し合う時、自分の日本語が身振り手振りも加えても、コミュニケーションに足りない場合に、英語が必要になった。だから、今後から、英語を勉強し続ける気持ちが一層高くなる。

未来に向いて、自信を持っていながら、素晴らしい青写真を計画するべきだ。最も大切なのは、全ての仕事に対して、大きな所に着眼し、小さい所から着手すること。これからも、夢を抱いて、司法試験に合格するために、前向きに精一杯頑張りたい。然し、今回の研修を通して、ビジネスに魅了され、日本語と法律を両立させる会社に就職する気持ちも持っているようになった。

*申し送りとして、アイセック、エコヒルズに対する要望

アイセックは学生自営の非営利団体として、発足した時の趣旨を掲げて、両国及び世界各地の学生達の交流、研修するために、多いチャンスを作って、もっと素晴らしい架け橋になるように念願っています。

エコヒルズで二が月の研修生活を過ごしましたが、会社に対して、なんとなく心中に帰属感が生まれました。地球は唯一の地球、われわれの地球ですから、この面から見れば、環境ビジネスは無国境、無制限な事業と言えるでしょう。エコヒルズは ISO コンサルや環境ビジネス業務を展開しているベンチャー企業ですが、新たな分野に先頭に立って、社会の流れに合わせ、ベンチャーから大手まで、成功の道で辿りついて、明るい未来を抱いてください。

*その他自由に記述

二が月の研修生活で、毎日中身が濃い経験をしました。アイセックの皆様、エコヒルズの皆様とホームステイ先の奥様のお陰で、一生涯忘れたくても忘れられない素敵な思い出を作りました。日本に着いたばかり時の不安と緊張が今でもはっきり覚えています。そろそろ帰なければならない今、蘇ると、不安と緊張はすでに風に飛ばされていました。

今後も、その収穫と経験を抱いで、毎日の明るい光を迎えて、大輪の花を咲かせ、大きな実のなれる人生を作るために、頑張っていきます。

同志社大学 4 年

2005 年 6 月 2 日 ~ 6 月 30 日

まず始めに私が大阪に在住という事を配慮して頂き、本来必要な 1 日インターンを省いて頂き、履歴書だけで採用という、エコヒルズで仕事をしやすい環境を作って頂いた事に厚く御礼申し上げます。ただ胸に込み上げる熱い気持ちだけで大阪から東京にやってきたので、この一ヶ月間、エコヒルズで働く方々に様々な迷惑をかけたこととお詫びしたいと思います。

エコヒルズでの一ヶ月間では様々な業務を行いました。朝礼当番、文書の作成、電話対応、ホームページの作成、取引先の方のプレゼント考案、傘立ての発注、なれない東京の街を運転……。どの業務を行うにしても、わからないまま始める事をしない、優先順位を考える、そして業務を行う前に一つ工夫をする、これらが仕事を上手くやる術だという事を知ることができ、今までの自分の住んでいた世界とは違う、期限や正確さを求められる世界にいるという実感を得ることができました。どの業務も自分を成長させるものとなりましたが、最も私を成長させた業務があります。それは、社員の Y さんと共同でおこなった、福岡水素エネルギー社会近未来展の出展勧誘業務です。どうすれば相手は話を聞くか、相手は何を求めているかなど、営業のノウハウを学習できたこともさる事ながら、電話勧誘の仕事をほぼ任せていただいたので、自分の電話一つで成果が直接変わってくる、Y さんの行動にも大きく影響する、という責任感という普段の生活では得にくい大事なものをこの業務から得る事ができたように思います。唯一残念だった事は、自分がインターンをしている期間中に出展までを決めた企業がなかったことですが、各々責任をもって、チームで営業をしたという充実感は何ものにも代えがたい私の財産です。

またエコヒルズの品質方針である、「常に相手の立場になって考える」事は自分がこれまで常に意識してきたことでありましたが、これは社会のあらゆるところで通用する、いやむしろ絶対必要な事であることを暗に理解することができました。私がエコヒルズを訪れたこの一ヶ月間はちょうど会社が変わろうとしている時期であったように思います。それぞれの思いがぶつかる様な事も何度かあったように感じますが、それは現状をより良くしたいという気持ちがあったことだと思います。社員の方々の議論の中に自分の身を置く事により、それぞれ人が何を考えているのか理解する、人間同士の付き合いの深さも勉強させて頂くことができました。

また、このインターンで実際、環境問題とそれに付随する社会性の高いビジネスの現状の何がわかったのかというと、何もわかっていないような気がします。なぜなら環境問題は簡単に測ることの出来ないもので、環境ビジネス市場の全体像を事細かに把握するなどという事は難しく、人の気持ちの中にぼんやりとあった「環境」が少しずつ固まってきている、というのが世界の環境の現段階の状況ではないかと思うからです。そういった意味で私の中の「環境」がエコヒルズでのインターンにより少し固まっただけでこれに関する収穫としては十分な気がします。

最後になりますが、社員の皆さん、インターンの T さん、そして A 会社の電話に出て頂いた相手の企業の担当者の方々始め、その他多くの方々、ありがとうございました。そして何よりこの素晴らしい機会を与えて下さった田宮さん、本当にありがとうございます。きっといつの日かまた皆さんに会える日を楽しみにしております。

エコヒルズに来てから早いものでもう1ヶ月が経ち、いよいよ今日でインターンを終了することになった。インターンを始めるにあたって私はいくつかの目標を設定したので、この場ではそれについて振り返ってみたいと思う。

目標1：エクセル・ワードが少しでもできるようになる。

“使いこなせる”くらいまではいかなかったが、沢山教わって沢山使ううちに基礎的な部分はほぼ身についたと実感している。インターンに来るまでは使うことも少なく、エクセルでは表すらまともに使えていなかった状況を考えると、だいぶ上達したのではないかなと思う。

ショートカットキーの存在を知ったことはかなり感動であった。最初は使い慣れていなかったが、クリック操作の方が早いと思っていたが、慣れるとショートカットキーを使った方が明らかに早いと判明し、仕事の効率を上げることができた。これから恐らくショートカットキーを使うたびに、その存在を教えてくれた那須さんの顔が思い出されてくるだろう…う…う…(笑)

エクセル・ワードの話とは少しずれるが、タイピングスピードが以前よりも速くなった。とはいっても、まだまだキーボードにかじりついている状態のタイピングなので、訓練して、早く画面を見ながらできるようになりたい。

目標2：相手を思いやれるようにする。

自分の中での「相手を思いやる」は、「自分中心になって自分勝手にならない」とも置き換えていた。大学に来てから、私はだいたい一人で1日を過ごすことが多いため、集団の中で何週間も周りのペースに合わせて仕事ができるか不安だったのだ。しかし幸いにも、1分1秒を惜しんでお客様の為に一生懸命仕事に取り組んでいる方々がいる良い気を持った環境だった為、自分のペースではなく、周りのペースにうまく合わせて仕事のできたのではないかなと思う。

「相手」の対象は社内の人はもちろんだが、社外の人へも向けることができた気がした。例えば JICCA 専用封筒を作っていた時は、これからその封筒を使う人、見る人の立場になって作ることができたし、その他の業務においても、お客様のことを考えながら作ることができた。

目標3：論理的な考え方ができるようにする。

論理的考え方につながるような内容をいくつか習得できた。そして論理的に考えることができると、それがそのままアウトプットされ、相手の要求に答えられたり、うまく指示ができるなど、相手を思いやれることにつながるということを学んだ。

誤字脱字チェックにおいて、文は主語・述語があり、位置が正しく、単語や接続詞の使い方が正しくてはじめて文としてなりたっているということを学んだ。これから卒業論文や社会に出て書類を書く時など、大いに役立つだろう。

那須さんとのやりとりやS企業での仕事によって、何かをする際は、目的、程度をはっきりさせないと、相手の要求にあったものがないということが分かった。

論理的考え方につながるような内容をいくつか習得できたといっても、いざ人前で喋る、文章を書くとなるとまだまだで、つまり頭の中が整理されていない証拠だと思うので、そこらへんは訓練を重ねて早く克服したいと感じた。

目標4：妥協せずにこだわりをもって取り組む。

インターンに来た当初は任された業務をこなすことでいっぱい、妥協はしていなかったがこだわりはあまり持てていなかった。しかし、周りの人とコミュニケーションをとることで、ガチガチになっていた頭が開放され、少し余裕を持って業務ができるようになってきた。この心の余裕によって、少しずつ自分なりの考えを取り入れた、こだわりを持った業務ができるようになってきた。例えば封筒の再利用化では、一度使った封筒に白い紙を貼って、封筒を再利用できるようにしたのだが、郵便局員が配達するときに記載されていた住所と見間違わないように、工夫して作ることができた。

こだわりをもつことで、製品や作業に愛着を持つことができた。

5：時間を大切にする。

途中からノートに時間軸を入れ、常に時間のことを意識して業務ができるよう努めた。といってもいつも帰るのが遅くなってしまい、結果的に作業効率の悪さはあまり改善されなかったのではないかと思う。指示を受けた時点で、自分のやる作業を明確にイメージ化する作業が足りなかったのではないかと思う。(ちなみに私は作業イメージがつかないと作業効率がかなり遅くなるとインターンを通して判明した。) その為には目的や、相手の細かい要求もすぐに汲み取ることができるようにならなければならないと感じた。

毎回というわけにはいかなかったが、作業終了時間を設定して取り組めたことがあった。ゴールが見えると、そこに向かって頑張るぞという気になり、効率よく作業ができた気がする。

自分の中で、設定した目標は8割方達成したのではないかと感じている。目標を設定したことで、その目標を達成する為に毎日頑張ることができた。

エコヒルズに来て一番感じたことは、かなり初歩的なレベルではあるが、「自分以外の人の大切さ」である。周りの人がいて初めて自分は価値を認められ、生かされていて、優しい気持ちになれるのだなと改めて実感した。これからはもう少し友達を増やして、人脈を広げて、周りの人を大事にしながら生きていきたい。

大切なことに気付かせてくれたエコヒルズのみなさんと、インターン期間中に関わったすべての人に感謝です。ありがとうございました。